Fraser Letter No.82

スタッフお薦め フレイザーの読み物をご紹介！

僕には鳥の言葉がわかる/鈴木俊貴 著

言葉を持つのは人間だけであると言われてきたが、シジュウカラはそれが間違いであることを教えてくれた。鳥には鳥の言葉がある。シジュウカラの鳴き声ひとつひとつに意味があり、それらを組み合わせて文を作ることまでできるのだ。
ひたすら実験。ひたすら観察。すごく根気が必要な作業だが、著者はただただ楽しいらしい。それがこの本のどこを開いても伝わってくる。
「動物言語学」という新たな分野を確立した著者は、2025年、イギリスの動物行動研究協会の最も栄誉ある国際賞「ティンバーゲン・レクチャー賞」を、アジア人初、史上2番目の若さで受賞した。
（本文内のイラストはすべて著者自身による！）



ISBN : 9784093891844　　請求記号　488/Su 96

ガラスの地球を救え：二十一世紀の君たちへ /手塚治虫 著

1989年に他界した天才マンガ家・手塚治虫は私たちに最後のメッセージを残した。人類の未来を憂え、子供たちの未来を守れと叫んだ。
代表作「鉄腕アトム」で作者が描きたかったのは、未来の世界が科学によって繁栄し、みんなが幸せになるという科学至上主義では決してなく、ひたすら進歩のみを目指して突っ走った結果、地球を汚し、生命あるものを傷つけるのではないかという危惧だった。
今読んでも決して色あせていない、むしろ今読んでほしいすばらしいエッセイである。



ISBN : 4334722881　　請求記号　914.6/Te 95

くだらないものがわたしたちを救ってくれる/キム・ジュン 著

子どものころ、生まれてはじめての実験が成功した著者は、大きくなったらどんな疑問にも答えられる科学者になろうと決めた。
生物学が特に不思議で、とても興味が湧いた。現在はくだらないもの扱いされがちな「かわいいチビっ子線虫＝C.エレガンス」を研究している。「そんなもの研究して、いったい何になるの？」と言うなかれ。2000年代初めに全世界を驚かせた「ヒトゲノム計画」の下地になったのはまさにこの「線虫研究」だったのだ。
研究には苦しみも楽しみもある。予算獲得も大変だ。でもそれを上回る楽しみがあるからやめられない。
あなたも顕微鏡の中の小さな宇宙へご一緒に。
（線虫以外の生物のお話もたくさん出てきますよ。）



ISBN : 9784760154616　　請求記号　460.7/Ki 38

ワンルームから宇宙をのぞく/久保勇貴 著

著者は宇宙飛行士になりたかった。なれると信じていた。
東京大学の航空宇宙工学科へ進み、その後JAXAに。
今は宇宙工学の研究をしている。

文章が軽快で、思っていることがストレートに伝わってくる。「おわりに」を読んだら、「文字を読むのが苦手だ。」とあり、とても驚いた。
「自分がワクワクするために研究をやっていたい。その時間をめいっぱいワクワクできれば幸せ」な著者が思ったことを言いたい放題の宇宙工学エッセイ！



ISBN : 9784778318567　　請求記号 538.9/Ku 11

ご紹介した本はすべて地下B1Fにあります。

創価大学フレイザー図書館　2026年11月発行